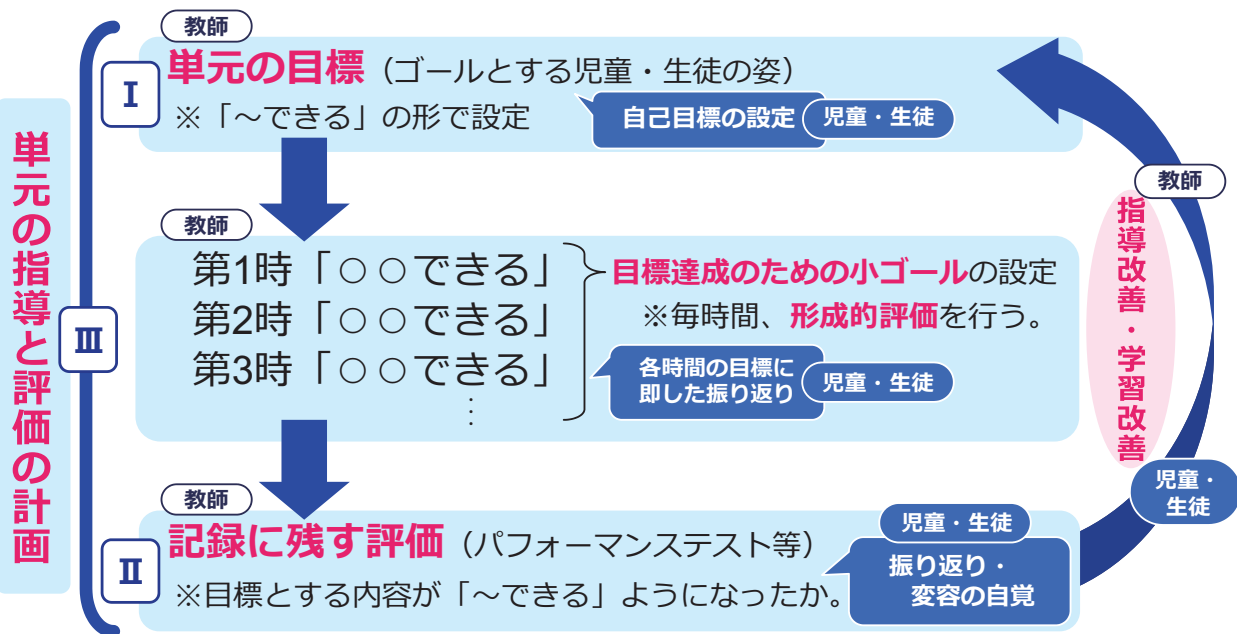


# 1 「指導と評価の一体化」に向けた単元構成

学習指導要領では、外国語科の目標を達成するため、英語の目標が「～できる」の形で五つの領域ごとに設定されています。このことを踏まえ、各学校においては、英語を使って「～できる」の形で単元の目標を設定し、その実現に向けて指導を行うとともに、児童・生徒が「～できる」ようになったかどうかを評価する場面を適切に設定する必要があります。具体的には、次の図に示した単元構成例を基に、Ⅰ～Ⅲの流れに沿って指導と評価を行っていくことが考えられます。

## ＜「指導と評価の一体化」に向けた単元構成例＞



本資料では、図中のⅠ、Ⅱ、Ⅲそれぞれの項目について、以下の章で詳しく解説しています。

- Ⅰ ➔ 「2 単元の目標の設定について」 …………… P 3 へ
- Ⅱ ➔ 「3 単元の評価規準の設定について」 …………… P 4 へ
- Ⅲ ➔ 「4 単元の指導と評価の計画について」 …………… P 5 へ

また、「5 中学校事例」及び「6 小学校事例」では、上記の流れに沿って指導と評価を行う際の「単元の目標」、「単元の評価規準」、「単元の指導と評価の計画」に加え、関連する内容として、「記録に残す評価」について、実際に評価を行う場面を取り上げています。

本資料では、以下のとおり各用語を用いています。

- パフォーマンステスト……  
「話すこと」のテスト（スピーチやインタビュー等）及び「書くこと」のテスト（自分の考えや気持ち等を文章で書くもの）を指す。中学校では、定期考査の問題も含むが、語彙、語法、文法知識のみを問う問題や、単なる下線部訳の問題は含まない。小学校では、主に「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」を扱ったものを指す。
- ペーパーテスト等…… ペーパーテスト（定期考査や単元テスト等）のほか、言語活動の際に用いるワークシートを指す。
- チャレンジクイズ…… 小学校において、「書くこと」、「読むこと」などに関して、単元や学期の終わりに実施するワークシートを指す。授業内に同一条件下で、10分程度で実施することが考えられる。

「小学校学習評価資料」  
事例4 (P87) 参照

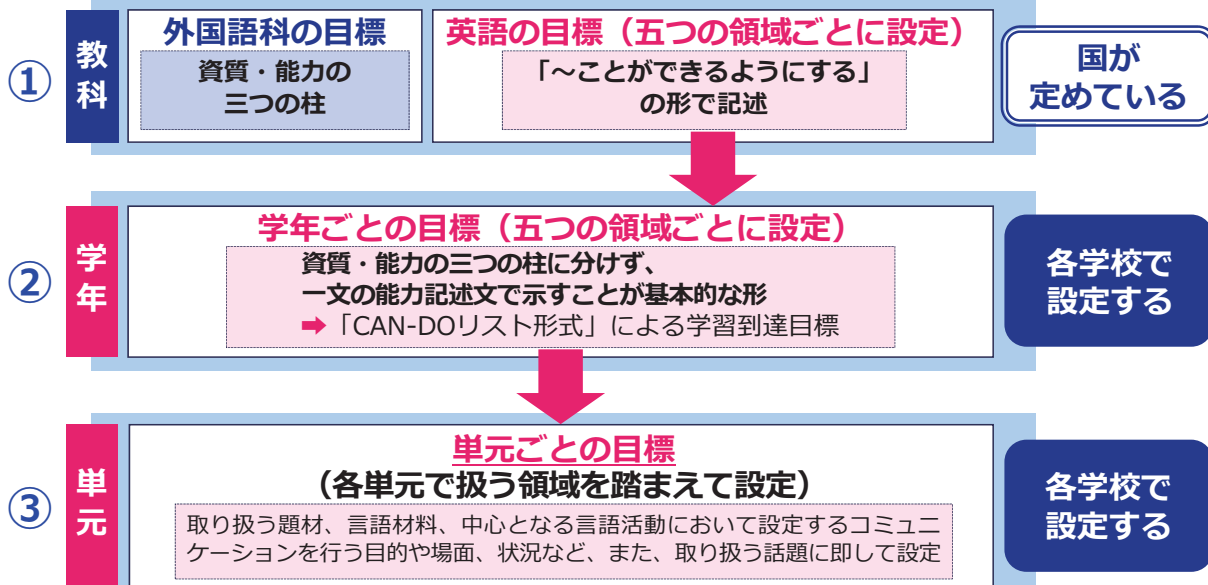


## 2 単元の目標の設定について

単元の目標は、各学校で設定する学年ごとの目標、各単元で取り扱う題材、言語の特徴やきまりに関する事項（言語材料）、当該単元を中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況など、また、取り扱う話題などに即して設定します。

具体的には、次の図に示した①～③の流れに沿って、各学校において、学年ごとの目標、単元ごとの目標を設定します。

### <教科の目標から単元の目標を設定するまでの流れ>



- ① 学習指導要領における**外国語科の目標**、**英語の目標（五つの領域ごとに設定）**を把握します。②学年ごとの目標、③単元ごとの目標は、**英語の目標（五つの領域ごとに設定）**に基づき設定します。



小学校学習指導要領解説  
外国語活動・外国語編



中学校学習指導要領解説  
外国語編

- ② **学年ごとの目標**を設定することで、各学年末に目指す児童・生徒の姿を明確にし、教員間で共有するとともに、目指すゴールとして児童・生徒に示すことができます。学習指導要領では、「学年ごとの目標を適切に定め、2年間（小学校）又は3年間（中学校）を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。」とされています。

#### 学年の目標の例（中学校第1学年「書くこと」の場合） ※英語の目標「書くこと」を踏まえる。

自分や身の回りの人物、身近な物事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて **紹介する文章を書くことができる。**

- ③ **単元ごとの目標**は、各単元で扱う領域について、**学年ごとの目標**と**英語の目標（五つの領域ごとに設定）**を踏まえ、一文の能力記述文（「～できる」の形）で示すことを基本とします。

**なお、一つの単元で全ての領域を扱う必要はありません。ただし、年間を通じて各領域をバランスよく扱う必要があります。**

#### 単元の目標の例（中学校第1学年「書くこと」の場合）

学校ホームページのアクセス数を増やすために、他の学校を紹介するメールを読んだり、学校行事や部活動等について事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて **まとまりのある文章を書いたりすることができる。**

単元の目標  
の具体例は？

本資料では、「読むこと」P6、「話すこと【発表】」P8、「書くこと」P10、「話すこと【やり取り】」P12を御覧ください。